

令和3年度第4回景観審議会デザイン協議部会 会議要旨

1. 審議会（部会）の日時、場所、出席者、議事

- (1) 開催日時 令和4年（2022年）2月3日（木） 午後2時30分～同3時30分
- (2) 開催場所 宝塚市立中央公民館203学習室 （リモート併用）
- (3) 出席者
 - ・景観審議会デザイン協議部会委員
岩井委員、中嶋委員、徳尾野委員、三谷委員、前田委員、野村委員
 - ・事務局（都市整備部 都市整備室 都市計画課）
尾崎部長、福田室長、谷口課長、下山係長
 - ・設計者
議事① 事業者 日本中央競馬会 阪神競馬場
設計者 株式会社 松田平田設計
- (4) 議 事
議事① 阪神競馬場特高受変電棟新設工事
- (5) 傍聴者
0名

2. 会議の要旨

事務局： 景観審議会運営規程第3条第1項の規定に基づき、本日の議事は全て公開となっています。傍聴者があれば入室を承認しますが、傍聴者はいらっしゃいません。

事務局： 本日の審議会（部会）は、委員7名中6名の出席がありましたので、宝塚市景観審議会規則第6条第2項の規定により成立する旨を報告します。

会 長： 了解しました。審議を開始します。本日の署名委員は順番により、岩井委員と野村委員です。

☆☆☆ 阪神競馬場特高受変電棟新設工事 ☆☆☆

会長： 今回の事業計画で、景観上特に配慮された部分について説明してください。

事業者： 今回計画する特高受変電棟は、現在スタンード一階に位置する特高受変電棟と発電機の更新で、緊急時にも事業を継続できるよう計画しています。

現在の阪神競馬場のスタンド入場門に隣接する既存アメニティホールを解体し、同位置に建て替えを行うものです。

建物の位置を敷地周辺の近隣建物からは十分に距離のある位置とすること、緑が豊かな阪神競馬場の良好な環境を保全するため、周辺樹木は全て保存することで、景観に配慮しています。

建物立面での主な景観の配慮としては、二階に位置する外部発電機置場を外壁と一体の壁で囲うことで、大きな設備機器である発電機が近隣から見えなないように計画しました。設備機器が大きいことで二階のボリュームが大きくなり、また、窓のない建物となるため、圧迫感をなくすために一階をセットバックさせ、軽く浮いて見えるようなデザインとしております。

建物の色彩についても、セットバックした一階を落ち着いた無彩色とし、二階を明るめの無彩色でシンプルにまとめることで、周辺に圧迫感を与えないデザインとしています。

中遠景からは、ガラスの箱で構成されたスタンド入場門と並んで見えた時に、対象になる白い箱となり、また、阪神競馬場の特徴ともいえる白いスタンドの大屋根とも馴染ませることで、敷地全体との調和を図る計画になっています。

委員： 今回の計画は、阪神競馬場の中では比較的小さい建物の建て替えですが、この競馬場の全体のデザインを拝見すると、施設全体のデザインに非常にまとまりがあり、素晴らしい設計だと感じます。

今回重要なのは、建物自体のデザインというより、競馬場全体のデザインコンセプトやマスタープランの中での、今回のデザインの位置付けだと思っています。また、資料にある敷地内部からのパースのような視点よりも、一般の車も通る道の方からの視点や、駅からデッキを通ってくる方々の視点から見た時に、どのような景観となっていくのかが大切だと思います。

マスタープランの中での今回の建て替えの意味と既存のデザインと今回のデザインとの整合性や妥当性についてお教え下さい。

設計者： 駅からデッキを通る方々からは、基本的には今回の施設はあまり見ることが出来ないような場所がございます。

一方、道の方からの視点では、ガラスの箱に対する白い箱と、その奥に阪神競馬場の大屋根が見えてきます。今回の施設は、この大屋根の白と並んで見えます。以前のような緑色の帯の壁面と比較すると、また違った新しいかたちで今後の阪神競馬場に馴染むような建物として考えています。また、道から見ると植栽が目に入るため、白い建物はよく馴染むと考えています。

会 長： 阪神競馬場としての全体計画というようなものはないのですか。

設計者： 今後、スタンド等の改修計画というものはあるのですが、今のところ全体計画は決まっておりません。

今回の建替計画において、既存の薄い緑色を活かしていくのか、新しい提案をするのか考えた結果、今回は新しい提案をしました。

近年では、スタンドの中のお客様のエリアも、既存のペールトーンの色でなく、無彩色ではっきりしたアーバンチックなデザインに代わってきていることを踏まえ、今回のデザインとしました。

委 員： ご説明は理解できました。ただ、今ご提示いただいている建物の色は、宝塚市としてはかなり白く明るい色です。そのため、このデザイン、この色をここに建てる妥当性を考えるときには、やはり施設全体でどのように考えているかというご説明がないと、今回の計画で景観上良いというという判断がしにくいとも思っています。

大屋根との調和とおっしゃるのでしたら、やはり全体構造の中で主要な視点場からの見え方も含めたご説明をいただけると、我々としても納得できますし、ご計画のことも理解できると思います。

委 員： 建物の外壁色について、ガラスの箱に対して白く浮くデザインというご説明を聞いて、そのような意図で N8.5 を選択されたのだなと理解はしました。

しかし、先ほどの委員の発言にもあったように、宝塚市では、街中を白く眩しくするのではなく、武庫山や山並みの土の色とも馴染むような、少し落ち着いた雰囲気のある景観づくりを推奨しています。N8.5 では白く浮きすぎてしまい、宝塚市の景観づくりには馴染まないと感じています。

材質としてもリブのないフラットな押出成形セメント板で、陰影も付きにくいので、より白さが目立ちます。外壁色は N8.0 にしていただけませんか。これまでも、外壁の色の明度は 7.5～8.0 以下でお願いしています。

また、今後他の建物を建替えていく時にも、最初に建て替えたこの建物が N8.5 であると、こちらに合わせて競馬場内の他の建物も N8.5 になっていく可能性もあります。それは景観審議会としては、非常に良くないとも考えています。

事業者： N8.0 をベースに、色彩計画を再度検討致します。

委 員： よろしくお願ひ致します。

会 長： 今後、競馬場内の建物が更新されていくこともあるかと思いますが、義務ではありませんが、できればお願ひしたいことを今から申し上げます。

今回の設計会社は、既存の大屋根のスタンドも設計されています。事業者と設計者が長期に渡って競馬場の建物について関わっているということかと思いますが、担当者が変わったとしても、全体のデザインコンセプトなどが引き継がれていくようにお願ひしたいと思います。

イメージを変えていくにしても、どのように変えていくという考え方が担当者ごとに違くと、全体として見たときに良いものになっていかないと思いますので、是非ご検討いただきたいと思います。

事業者： 分かりました。

委員： 阪神競馬場は、白い大屋根が大きく被っていて、その足元に低層の建物が緑と白で構成されているというイメージがあります。

今回の建物も、既存は緑と白の構成です。これが全く違う白になってしているのでしょうか。今回のデザインのこの白は、既存の建物のどこかで使われている白ですか。それとも全く新しい白ですか

事業者： 全く新しい白です。最近の改修の傾向として、木質からモノトーンを中心にした色使いに変わっていますので、無彩色を中心として考え、隣のガラスの箱と対峙したような白い箱というようになっております。

窓のない建物であるため、単調と言われればそうなのですが、それをあえて際立たせ、その存在感を消すような軽さを出したいと言う事で、明るめの色でなるべく軽く見せたいという思いでした。

委員： おそらく色だけの問題ではなくて、競馬場全体の構成の中の問題だと思います。これだけ別の新しい表現だと言われると、先ほどの「全体のマスタープランの中でどのように考えているのか」という話に戻ってしまうと思います。

委員： 電車から見ても、競馬場の大屋根はとても印象的なものです。白にこだわるのであれば、同じ白でも調和のあるものにしていただければと思います。

委員： 今の委員の発言のとおり、大屋根は特徴的な形で、どの場所からでも視認できるものです。

ご説明の中で、今回の白い施設が浮いて見えるようにとおっしゃったように、屋根が浮いているというのは景観として美しいものです。しかし、逆に下まで真っ白になってしまうと屋根の軽さが阻害されるのではないかと思います。

これからの傾向として無彩色をという事でしたら、下の方を無彩色系として、緑地と無彩色という形の色彩の選定という可能性もあるのではないかと思います。緑と無彩色は合います。これは感想ですので、設計者さんや事業者さんのご判断にお任せするのですが、屋根が美しいというコンセプトが今後もずっと続いていくといいと思っています。

委員： 今回の建物はデザイン協議部会の対象なので、このように協議の場があるわけですが、それ以外の小さな改修などもあるかと思います。それらについても、全体としてまとまりのある計画になるよう、やはり全体のマスタープ

ランをつくった上で、今後の建て替えや改修を進めていただければと思います。

会 長： 競馬場全体を見て、それぞれの建物がどのような景観配慮をしているのか、今後どうしていくのかという事を、対外的にだけではなく、内部でも共有できるようにしておいていただければと思います。屋根の白色との関係で色が決まっているとか、デザイン協議部会でのこういった意見を反映しているとか、色々な説明の仕方があると思いますので、ご検討ください。

今回の建物については、本日の意見を受けて、色彩や外壁の表情を決めていただければと思いますので、ご検討宜しくお願い致します。